

第32回日韓国際セラミックスセミナー The 32nd International Japan-Korea Seminar on Ceramics

H27会自21

開催日 平成27年11月18日～平成27年11月21日(4日間)
開催地 ホテルニューオータニ長岡(新潟県長岡市台町2-8-35)
申請者 長岡技術科学大学 准教授 中山 忠 親

会議の概要と成果

1. 会議の概要

1.1. 主催団体等

主催

日韓国際セラミックスセミナー 組織委員会

1.2. 開催目的

日韓国際セラミックスセミナーは1984年にニューセラミックス分野の発展のために、韓国代表全炳植国立工業試験院長、日本側は斎藤進六長岡技術科学大学長、後藤 優無機材質研究所所長、中島邦雄通産省ファインセラミックス室長(職名はいずれも当時)が中心となって開催されました。その後、毎年日韓両国で交互に開催されています。本セミナーは、学術研究交流による学術交流だけでなく、セラミックスに関する文化交流、民間交流など、日韓を中心とした国際的なセラミックスに関する多様な交流を促進することを目的としています。また、その内容は伝統的セラミックスをはじめ、光・電磁気機能セラミックス、構造セラミックス、環境セラミックス、生体セラミックス等、次世代セラミックスの科学技術のほぼ全領域がカバーされています。また、企業からの発表等も多く、産学官の国際的な連携を深める努力もなされています。

2. 会議の概要と成果

2.1. 参加者

参加者総数は192名、内新潟県内者数22名、県外者数83名(国外参加者を除く)、国外者数は9ヶ国から82名であった。一般参加者は128名、学生は64名であった。

参加国(地域)は日本、韓国他に、中国、インド、マレーシア、メキシコ、パキスタン、カタール、米国、ベトナムからの参加者があった。

2.2. 発表件数

総件数176件、基調講演3件、口頭発表114件、ポスター58件の講演を戴いた。

2.3. 基調講演

基調講演は下記の3名により行われた。日本側からProf. Yoshio Sakka (NIMS) により Development of Electric current activated/assisted sinteringが、韓国側からは、Prof. Young-Jei Oh (Korea Institute of Science and Technology) により、Nanomaterials as a promising alternative transparent electrode for flexible electronicsが、中国から、Hua Tay Lin (Guangdong University of Technology) により、Design Ceramic Components with Functionality and Reliabilityが講演された。

2.4. 一般講演

一般講演は17のセッションに分けられ、それぞれ下記の件数の講演があった。

1. Synthesis, Raw Materials & Advanced powder processing
2. Thermoelectrics
3. Thin Films & Layers
4. Nano-particles & Nano-structured Materials
5. Fuel cells and batteries
6. Electronic Ceramics
7. Structural Ceramics & Refractory Materials
8. Glass & Opto-Electronic Materials
9. Biomaterials
10. Sensor materials
11. Electric Field assisted Sintering
12. Piezoelectric Materials, Devices & Applications
13. Lead-free Piezoelectric Materials
14. Computational Ceramic Science and Engineering
15. Ceramics Culture and Education
16. LED and Display Materials
17. Advanced Coating for Gas Turbines

2.5. 若手優秀発表賞

若手研究者の口頭発表に対して、各セッションの座長(日韓それぞれ1名ずつ)による厳正な審査により、日本側2名、韓国側2名の若手優秀発表賞が選定された。本年度の受賞者は下記の4名であり、授賞式は2016年の第33回大会において表彰される事となっている。

若手優秀発表賞 日本側候補者

P.J. Kumar / Shizuoka Univ.

K. Shinozaki / Nagaoka Univ of Tech

韓国側候補者

Jima Jeong / Chungnam National Univ.

Karam Han / Kongju National Univ.

2.6. 会議の成果

今回の会議においては、近年の環境問題への意識の高まりにより、環境低負荷型のプロセス、環境浄化材料などへの研究発表数が多かった。次いで、スマートフォンなどの構成部材としての誘電体、磁性体、光学材料、電池、ガラス材料や、自動車などの周辺部材としてのエネルギー変換材料、センサー材料に関する研究発表が多く見受けられた。これらの領域は日韓を中心とした国が世界をリードしている分野でもあり、世界レベルの活発な議論が展開されていた。また、ウェルカムパーティやパンケットにおいては、新潟県ならではの日本酒が振る舞われ、より活発な人的ネットワークの構築に結びついていた。

2.7. 次回について

次回第33回は2016年11月に韓国大田市において開催予定である。



目義雄先生 (NIMS) による基調講演



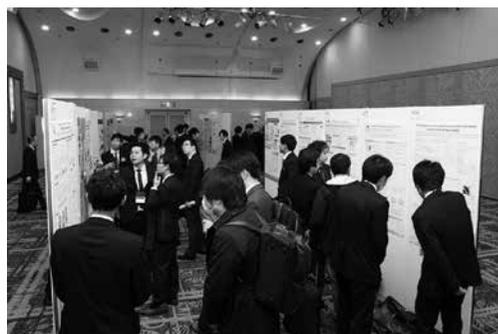
口頭発表会場風景



小松高行 現地実行委員長による挨拶



ポスター発表風景



ポスター発表風景